

(5) 八東中学校

学 校 長 東 卓志
校内研究代表者 山脇 太郎

1. 研究主題 「個性豊かで学びに向かう意欲を高めるわかる授業の創造」

2. 主題設定の理由

本校の生徒は素直で規範意識も高く、落ち着いて授業に取り組むことができる。しかし、「やらなければならない」ことはきちんとできても、自分たちでさらに良いものを作り上げようと創意工夫をする力は十分とはいえない。また、日々の学習が「何のために」、「どのように役立つのか」といった意識が低く、将来の自分の姿をイメージできていない生徒がいる。このことから、学校の教育活動全体を通して、学びと自己の将来とのつながりを見通しながら、豊かに生きるための資質・能力を身に付けていくことが課題である。

本校の学級編成は、第3学年が1学級、特別支援学級が2学級(知・情)であり、全校生徒は3名である。そのため、生徒一人一人の個性と特性に応じた授業づくりが求められる。指導においては、学校生活や授業の中でお互いに関わり合いを持たせながら、個々の生徒が希望する進路に向け、授業を行っていくとともに、生徒にとって困難な課題に対しても意欲的に取り組んでいこうとする前向きな姿勢を高めていくことが必要である。そこで、本校の教育目標を「個性豊かで学びに向かう意欲にあふれた生徒の育成と認め合える仲間づくり」とし、「授業と家庭学習のサイクル化」を中心とした授業づくりに取り組んでいくこととした。日々の授業では指導方法の工夫改善に努め、生徒の学習意欲や自信につなげていきたいと考え本研究主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究の内容

- ①授業と家庭学習のサイクル化・保小中連携
- ②教科間連携の研究
- ③特別な教科道徳の指導と評価について
- ④特別支援教育の充実

(2) 研究方法

- ①校内研修日の設定(月3回)
 - ◇「学力向上部」「生活向上部」の2部会に全教員が所属し、取組の提案と検証を行う。
 - ◇その他の部会においては、必要に応じて会を開催する。
- ②研究授業を行い、全員が参観する。
 - ◇指導主事を招聘し、指導助言を受ける。
 - ◇授業改善(5教科)プランでの研究実践、特別支援教育、道徳において研究授業を行う。
- ③授業評価アンケート(年3回)を行い授業に対する自己点検を行う。
- ④講師を招聘して研修会を行う。
- ⑤小中で合同研修、研究授業参観、出前授業を実施する。

4. 具体的な取組

(1) 「授業と家庭学習のサイクル化、保小中連携」の取組

- ①授業と家庭学習のサイクル化
 - ◇各教科で家庭学習が授業に役立っていると感じられる取組について研究し、実践する。
 - ◇予習→授業→復習といったサイクル化を意識した授業や家庭学習を実践する。
 - ◇授業と家庭学習のサイクル化について、各教科の実践例を教員がレポートでまとめ校内研修で発表し、共有する。
 - ◇家庭学習の取組の内容を把握するためアンケート集計(2回)を行った。

②小中連携の取組

- ◇小中の研究主任による連絡会を行い、合同研修等の日程を調整する。
- ◇年3回小中合同研修会および職員会を通じて、授業と家庭学習のサイクル化についての在り方を協議した。また、生徒の情報交換や共通の課題を見つけ、その解決方法を合同で検討した。
- ◇小学校への研究授業への参観、5教科の出前授業、中学校の研究授業へ招待した。
- ◇保・小・中の教員、保護者を対象に、八東地区子育て講演会の開催。〈図1〉
講師：香川大学准教授 鈴木裕美先生 演題「明日が変わる子育てと生活リズム」

(2) 授業改善と学力向上について

- ◇各教科で全国学力・学習状況調査、標準学力調査の学力分析を行い、課題克服のための取組について考え、今後の指導に生かす。また、2月に同様の問題について再度取り組ませ、学力の定着について分析する。
- ◇放課後の25分間学習（チャレンジタイム）を活用し、国語・数学・英語の基礎学力の定着を図る。また、3年生は10月から1時間の補習を行っている。
- ◇授業評価アンケートを実施（2回）し、各教科で授業に対する自己点検と評価を行う。
- ◇「資料を読み取り、活用する力」の育成を目指した取り組みとして、新聞記事を原稿用紙にまとめ発表を行う。作成した原稿用紙は、地域の学校支援員に点検、評価をしてもらう。〈図2〉

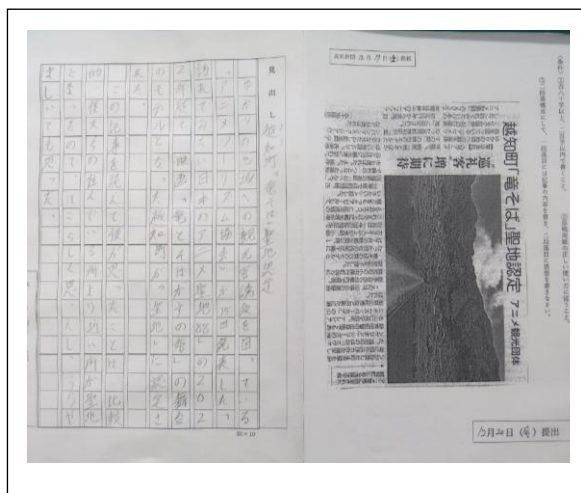
(3) 教科間連携の研究について

- ◇校内研修にて全国学力・学習状況調査、標準学力調査の学力分析や、生徒一人一人の特性に応じた指導法について検討を行い、新学習指導要領で目指す授業の実践を進める。
- ◇授業づくり講座等の研修を通してその学校での実践を学び、校内で実践内容を共有し、各教科での授業改善に取り組む。

〈図1〉保小中合同講演会



〈図2〉新聞記事と生徒の感想



(4) 特別な教科道徳の指導と評価について

- ◇道徳教育全体計画及び年間指導計画の見直しと確認を行った。
- ◇道徳の研究授業を行い授業の改善に努めた。また、指導主事を招聘して授業の振り返りと指導に関する評価、助言を受けた。
- ◇道徳参観日を実施した際には、保護者や地域の方にも公開授業として参観してもらった。また、地域の方から授業の感想をいただいて、生徒の考えや授業について振り返ることができた。〈図3〉

(5) 特別支援教育

- ◇「生活単元」の研究授業を通して、全教員で特別支援教育の理解を深めた。また、特別支援教育コーディネーターを招聘し、生徒に必要な支援についての研修を行った。
- ◇人権参観日を実施し、障害者についての学習では、東京パラリンピックの教材を通して、保護者、地域の方とともに人権意識を向上を図った。〈図4〉

〈図3〉道徳参観日



〈図4〉人権参観日



5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

○アンケート結果より、それぞれの項目で肯定的評価が高い。

教員アンケートの結果（5段階評価）

| | |
|------------------------------|-------|
| ①家庭学習のサイクル化を意識した授業づくりができたか。 | 4. 50 |
| ②家庭学習をサイクル化することで、授業の質は上がったか。 | 4. 75 |
| ③家庭学習は生徒の授業理解に役立っているか。 | 4. 75 |

○授業→宿題→授業という流れが定着し、学習習慣が身に付いている。復習、予習の内容を授業を通して繰り返しながら扱うことで、基礎基本の定着に役立った。

○家庭学習のサイクル化の取組では、授業の中で考える時間を家庭学習の課題として扱うことで、自分のペースで考えることができていた。また、その時間を発表や深める活動に使えるので、内容の定着もよかった。

○道徳、人権参観日では、保護者や地域の方による授業参画と啓発活動に努めた。

○保・小・中の教員と保護者を交えた講演会を開催することで、それぞれの機関や人々との交流ができた。

○小学校の授業を全教員が参観し、小学校、中学校のつながりを意識した授業づくりについて考え、授業改善に生かそうとする意識が高まった。

(2) 課題

●授業で小学校からの内容を系統的に指導するために、小学校の学習内容を把握したうえで家庭学習を出したり、定着度を確認したりしながら進めていく必要がある。

●道徳の授業では、全校生徒が3年生の3名のみで、特別支援の生徒とも合同で実施するため、意見の交流ができていない。そのため、多面的・多角的に深く考える授業づくりが難しかった。

●昨年、一昨年と中学校へ進級した児童がいないため、中学校での様子について話し合いができず交流の深まりは少なかった。